



Title	大阪大学 OUマルチリンガルプラザにおけるスワヒリ語・スワヒリ語圏文化学習支援の取り組み
Author(s)	安部, 麻矢
Citation	スワヒリ&アフリカ研究. 2023, 34, p. 105-113
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/91117
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大阪大学 OU マルチリンガルプラザにおけるスワヒリ語・
スワヒリ語圏文化学習支援の取り組み
Support for Swahili and Swahili-speaking culture learning at OU
Multilingual Plaza

安部 麻矢*

ABE Maya

0. はじめに

OU マルチリンガルプラザは、マルチリンガル教育センターが主体となり 2020 年 4 月に豊中キャンパスに設置され、2020 年 3 月には吹田分室も設置された、外国語の自律学習を支援する施設である。OU マルチリンガルプラザで支援するのは、大阪大学で専攻語として学べる 25 言語のほか、留学生や外国人研究員にとっての日本語の、課外での自律的な学習である。

本稿では、豊中キャンパスの OU マルチリンガルプラザが実施するサービスの中で、筆者がこれまでに企画し実施した、スワヒリ語とスワヒリ語圏文化学習支援ための取り組みについて紹介する。

1. OU マルチリンガルプラザについて

OU マルチリンガルプラザ (以下「プラザ」) は、大阪大学の概算要求プロジェクト「『キャンパスライフ一貫型』言語教育によるグローバルプレゼンスの確立」(2019 年度～2021 年度)の事業のひとつとして、マルチリンガル教育センターが主体、そして言語文化研究科、国際教育交流センター、サイバーメディアセンター、外国語学部、工学研究科が協力部局となり、2020 年 4 月に豊中キャンパス・サイバーメディアセンターに設置された施設である。大阪大学が目指す、「語学力強化」(国際性涵養教育の充実)を根幹から支える事業として、専攻語として学べる 25 言語のほか、留学生や外国人研究員にとっての日本語の、課外での自律的な学習の支援を目的としている。筆者は多言語学習および多文化理解支援の担当としてプラザの開設・運営に携わっている。

* 大阪大学マルチリンガル教育センター特任講師 (Specially appointed associate professor, Center for Multilingual Education, Osaka University)

現在プラザでは、外国語の自習のほか、会話練習（英語・日本語・中国語・韓国語）や多言語・多文化に関するイベント、日本語学習に関するイベントといった学習サポート、また、25言語の自律学習を助ける学習リソースの紹介をウェブサイトや SNS で行っている。

プラザが開設された 2020 年 4 月は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の始まりを受け、大阪大学はすべての授業をオンラインで実施していた時期である。感染拡大防止のための大阪大学の活動基準により対面での課外活動が禁止であったため、プラザはサイバーメディアセンター4階の施設を開室することができず、2020 年度の春夏学期は、受付業務や会話練習に従事するために採用したティーチング・アシスタント（以下 TA）およびティーチング・フェロー（TF）の大学院生は、自律的な外国語学習のヒントとなるようなエッセイの執筆や動画作成に従事した。その後 2020 年度秋冬学期より、zoom によるオンラインにて、会話練習のほか、多言語学習および多文化理解に関するイベントの企画・開催を開始した。また、2022 年春夏学期より、施設を開室し、対面での会話練習やイベントの実施を開始した。次節以降では、プラザで筆者が関わったイベントやワークショップの事例を紹介していく。

2. プラザでの多言語学習・多文化理解を推進するための取り組み

プラザでは、英語力強化、留学生や外国人研究員の日本語学習支援のほか、多言語学習・多文化理解を推進するための取り組みのひとつとして、多言語学習および多文化理解に関するイベントを企画・開催している。また、プラザのウェブサイトや、Twitter と Instagram にて、外国語の独習に役立つオンラインコンテンツや自律的な学習に役立つ情報を発信している。ではそれぞれの取り組みについてみていく。

2.1. 独習に役立つオンラインコンテンツ

プラザでは、ウェブサイトや SNS にて、外国語の自律的な学習に役立つ情報を発信している。このうちウェブサイトでは、大阪大学で専攻語として学べる 25 言語の学習に役立つ、独習用の学習コンテンツやオンライン辞書、各国情報のメディアの情報を発信している。スワヒリ語についても、大阪大学の「高度外国語教育全国配信システムプロジェクト」作成のスワヒリ語独習コンテンツのほか、東京外国語大学 グローバル COE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点 (CbLLE)」作成のオンライン辞書、ダル・エス・サラーム大学スワヒリ語研究所 (TUKI) 発行のスワヒリ語－英語および英語－スワヒリ語辞書のオンライン版、また各種メディアのスワヒリ語ニュースのウェブサイトを紹介している（次頁図1、大阪

大学 OU マルチリンガルプラザ 2021)。



図 1 スワヒリ語独習コンテンツリスト

2.2. 大学院生企画によるイベント・ワークショップ

多言語学習および多文化理解に関するイベント・ワークショップは、おおむね 1 か月に 1 回の頻度で、TA および TF が企画し、開催している。この企画では、それぞれのトピックにしたがい、TA・TF の母語や、これまでに学習し高い運営能力を持つ言語と、その言語圏の文化を取り上げている。このような企画の状況のなかでアフリカの言語や文化を担当できる者がいないため、筆者はたびたびスワヒリ語やスワヒリ語圏の文化を担当している。これまでに筆者が関わったことのある TA・TF の企画によるイベント・ワークショップは以下のようなものである。

- ①諺を通して世界を見よう！
- ②世界のお祝い・お祭りをみてみよう

2.2.1. 「諺を通して世界を見よう！」

このワークショップは、2020 年 6 月に zoom によるオンラインにて開催された。TA と筆者が中国語、韓国語、スワヒリ語の諺を紹介するほか、参加者にも自分が学習したことのある

言語の諺を紹介してもらい、意見を交換するという、参加者の能動的な参加が必要なものであった。中国語、韓国語の諺の紹介を3人のTAが担当したほか、筆者はスワヒリ語の諺を担当した。また、諺とは少し異なるが、スワヒリ語圏における、ことばを介した重要な文化のひとつであるといえる、カンガに書かれていることば(jina)¹⁾を紹介した(図2、図3参照)。

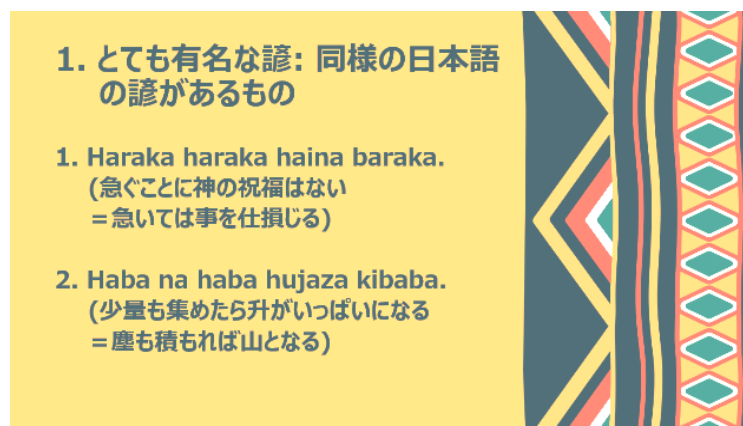


図2 スワヒリ語の諺のスライド



図3 カンガの jina のスライド

2.2.2. 「世界のお祝い・お祭りをみてみよう」

このイベントは、一般社団法人・国立大学協会が開催した「国立大学フェスタ2021」に、プラザが参加し行った「OU マルチリンガルプラザ体験 2021」の企画のひとつとして、2021年

¹⁾ スワヒリ語圏の女性が身に着けたり、子供をおぶったりするのに使う、110cm×160cmの布で、下の中央に格言やメッセージ(jina)が書かれている。カンガのjinaは、先に紹介したような諺とは異なる(格言のほか、神への感謝・賛辞、婚礼、夫や隣人への皮肉など)。

11月にzoomによるオンラインで開催された。このイベントは、ロシア・ドイツ・中国・韓国・タンザニアの、1年で最も盛り上がるお祝い・お祭りを紹介したものである。筆者はタンザニアのお祝い・お祭りとして、ラマダン明けのお祝い(Idi)を紹介した(図4、図5参照)。



図4 Idiの説明のスライド(あいさつ)



図5 Idiの説明のスライド(食事)

2.3. スワヒリ語や東アフリカの文化に特化したイベント

2.1で言及したイベントは、あるトピックについて、複数の言語・文化について紹介するもので、そのうちのひとつとしてスワヒリ語やタンザニアを紹介するものであった。これらの複合的なイベントのほか、筆者はこれまでにスワヒリ語やスワヒリ語圏の文化に特化したイベントをいくつか企画し、開催している。イベントは以下のとおりである。

③オンラインでタンザニア・ザンジバルのビーチを探索しよう

④スワヒリ語・東アフリカの文化ワークショップ

2.3.1. 「オンラインでタンザニア・ザンジバルのビーチを探索しよう」

このイベントはそのイベント名が示すように、zoom によるオンラインにて、2021 年 11 月に実施した。このイベントの実施には、以下のような背景があった。

2020 年初頭からの新型コロナウイルス感染症の世界的な流行にともない、海外留学や海外旅行を予定していた学生や大学院生は、短期・長期を問わず、軒並みその予定を中止・延期せざるを得ない状況であった。このような状況から、プラザでは、オンラインでも現地の様子を直接見たり、現地の人に話しかけたりする機会を提供したいと思い、2021 年 5 月に、学会発表で帰国していた中国出身のプラザ TA に依頼し、彼女が滞在中であった河南省から、zoom を使用し現地のショッピングモールやスーパーの様子を紹介するオンラインツアーを実施した。このオンラインツアーでは、現地にいるプラザ TA が中国語で町やお店の様子を説明し、日本にいる他の中国出身のプラザ TA がその中国語を日本語に通訳し、さらに別の中国出身のプラザ TA がその中国語をチャット欄で文字に起こすということを行った。これにより、中国語が理解できる参加者は画面に映ったものについて、現地にいるプラザ TA やお店の人たちに直接中国語で話しかけて尋ねることができたほか、中国語がわからない参加者も状況が理解でき、口頭もしくはチャットにて、日本語で質問をし、やり取りをすることができた。このイベントの参加者数は 12 人であった。先述のように海外渡航がかなわない状況下において、現地の様子を知ることができ、また中国語でやり取りができたということで、参加者には大変好評であった。

このような背景から、上記の企画の第 2 弾として、タンザニアのウングジャ島（通称ザンジバル）北東部のマテムウェ（Matemwe）のビーチの様子を zoom で中継するというオンラインツアーを実施した。このツアーの実施にあたっては、現地在住のスワヒリ語専攻卒業生が現地の中継および現地のひとへの質問を担当してくれた。筆者は卒業生と現地のひととのやり取りを日本語で説明し、キーワードとなるスワヒリ語についてはチャット欄で文字起こしをしたほか、筆者自身も現地のひとたちにスワヒリ語で話しかけ、それを日本語で通訳し、説明するというを行った。このイベントの参加者は 12 人であった。イベント終了後に実施した参加者アンケートでは、なかなか行くことのできない地域の様子が知られてよかった、このような機会はとても貴重なのもっと周知されるべきといった、好意的なコメントが多く

寄せられた。

2.3.2. 「スワヒリ語・東アフリカの文化ワークショップ」

大阪大学では、スワヒリ語は専攻語として学習されるほか、外国語学部の学生にとっては、兼修外国語として履修可能な言語である。一方で、箕面キャンパス以外の学生や大学院生にとっては、めったに触れる機会のない言語である。このような状況のなか、3.2.1 で言及した、ザンジバルのビーチを散策するオンラインツアーの参加者の所属をみると、外国語学部のほか、他学部・他研究科からの参加者も多かった。このことから、アフリカやスワヒリ語に関心を持つ学生や大学院生は箕面キャンパス以外にも多くいることが示唆された。

そこで筆者はスワヒリ語や東アフリカの文化に関するワークショップを企画し、2022年4月と5月に全5回構成で実施した。2021年度秋冬学期までのプラザの活動はすべてオンラインで行ったが、2022年度春夏学期からはサイバーメディアセンター4階のプラザを開室できることとなり、当イベントもプラザで開催した。一方、他キャンパスに所属する人たちや、オンラインでの参加を希望する人たちのため、zoomでの参加も可能とし、ハイブリッド形式で実施したところ、22名の参加があった。

このワークショップは、東アフリカの文化について紹介するパートと、スワヒリ語の文法の簡単な説明および会話練習のパートの2部構成で行った。東アフリカの文化の紹介では、東アフリカの文化の概説のほか、食べ物、布、音楽、芸術、お祭りについてあつかった(図6参照)。

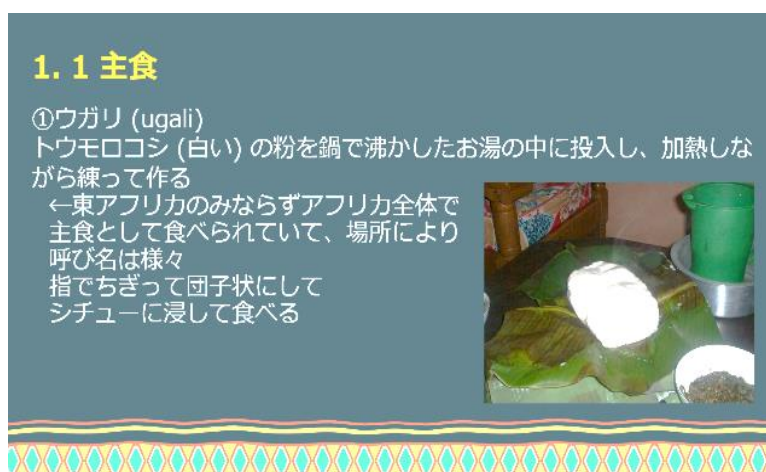


図 6 文化の説明のスライド (食べ物)

またスワヒリ語の文法のパートでは、スワヒリ語のおもしろいところ、あいさつ、自己紹介、動詞の構造と名詞クラスの概説のほか簡単な文を取り上げ、会話練習のパートでは、あいさつ、自己紹介、買い物（「〇〇を△個ください」）を取り上げた。また、あいさつの練習の回では、タンザニア人に zoom に参加してもらい、実際にあいさつのやりとりをしてもらった（図 7 参照）。

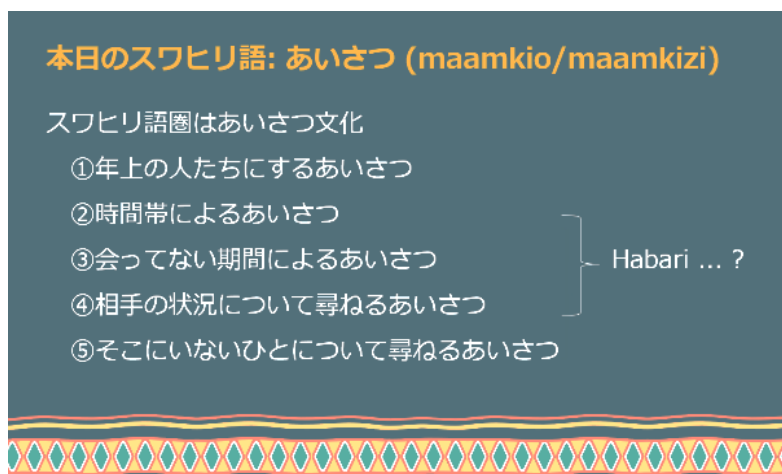


図 7 あいさつについての説明のスライド

先述のように、このイベントは全 5 回の構成であったが、途中からの参加や単回での参加も可能とした。この結果、約半数が 5 回ともに参加したほか、途中からの参加や単回参加もみられた。また、全 22 名の参加者のうち、8 名がオンラインでの参加であり、ハイブリッド方式での開催の意義があったといえる。参加者の所属の内訳として特徴的だったのは、外国語学部の学生が 10 名と、全体の約半数であったことである。イベントの告知はプラザのウェブサイトや SNS のほか、KOAN で全学生・大学院生に向けて行った中で外国語学部からの参加が約半数であったことは、外国語学部の学生の外国語学習への関心が特に高いことを示唆している。また、このイベントは 4 月からの開催であったが、学部 1 年生が 7 名参加したことも、これまでの他のイベントの参加者の内訳と比べても特徴的であった。2022 年度の新入生を対象に、プラザを紹介するブックレットを配布したこととの関連も考えられる。

毎回のワークショップ終了時に実施した参加者へのアンケートでは、会話練習が楽しかった、タンザニアに行ってみたくなったといったとても好意的な意見が多数みられ、スワヒリ語や東アフリカの文化に関する学習への導入としては、大きな意義があったといえよう。

3. まとめ

本稿では、豊中キャンパスに開設した、外国語の自律学習を支援する施設である OU マルチリンガルプラザにおける、スワヒリ語やスワヒリ語圏文化の自律的な学習を支援するための取り組みについて概説した。2020 年度および 2021 年度のプラザの活動はすべてオンラインで行っていたため、施設の周知が十分できていたとはいえ、どの支援サービスにおいても参加者数が多いとはいえない状況であった。しかし 2022 年度より対面での活動を開始し、また新入生を対象にブックレットを配布し告知した結果、利用者数が増え、スワヒリ語やスワヒリ語圏文化に関するイベントにも、これまでよりも多くの参加者があった。そこで、他の言語やその言語圏の文化の学習を支援する取り組みとのバランスをとりつつ、今後もスワヒリ語やスワヒリ語圏の文化の自律的な学習を支援できるような取り組みを行っていき、学生や大学院生などが、アフリカやスワヒリ語圏により親しみを持ち、世界的な視野でものごとをとらえられるきっかけとなるよう支援していきたい。

参考資料

大阪大学 OU マルチリンガルプラザ. 2021. 「スワヒリ語学習コンテンツ」

URL: <https://www.lang.osaka-u.ac.jp/cme/plaza/category/contents-lang/swahili/>

(最終閲覧日 2023 年 2 月 22 日)